

I-2. タチバナ及びヤマモモの遺伝資源収集, 1986年

果樹試験場 興津支場 育種第2研究室

梶 浦 一 郎*

平 井 正 志

タチバナ

1. 目的

タチバナは日本原意のカンキツであるが、その分布地の系統的な把握や、遺伝的な変異、生育状況との現地保存での問題は判明していない。我が国におけるタチバナの分布と保存時の問題点を調査し、収集することを目的とした。

2. 経過

環境庁による全国の植生調査結果と事前の聞き取り調査から、タチバナの分布を調べた。このうち、高知、愛媛、宮崎県について、9月16～19日にかけて、各県の果樹試験場の協力をいただき保存の状況と問題点を調べるとともに、遺伝的な変異を把握するため図1Aの各地点のタチバナについて葉を採取し、アイソザイム分析を行なった。この結果をふまえて、昭和62年1月には、宮崎県下の天然記念物指定のタチバナを中心に、穂木または種子の収集を行なった。

3. 収集成果

高知県室戸岬及び足摺岬付近では多くの植栽樹が見られた。しかし、自生樹と見られるものはほとんどなかった。温州ミカンの台木として山採りされたり、病虫害の発生源として伐採されて、消失していた。宮崎県では、天然記念物に指定されている石波海岸樹林においても自生樹の多くは既に環境の変化により枯死していたが、今回3本発見できた。

また、アイソザイム分析を行った結果、独特の遺伝子型が見つけられた。天然記念物指定の3系統に加え、宮崎県下では、表1に示される系統の穂木または種子を採取することができた。これらは、接ぎ木苗及び実生苗にして養成する予定である。

4. 所感

自生樹の枯死には人為的な理由も少なくないが、自然林の植生変化によるものも考えられ、その場合、保存には人為的な植生管理が必要と思われた。

協力研究機関等

高知県果樹試験場

愛媛県果樹試験場

宮崎県果樹試験場

* 現農業生物資源研究所

ヤマモモ

1. 目的

ヤマモモも日本原産の常緑果樹として重要な遺伝資源と考えられるが、自生している集団に対する調査は今まであまり十分ではない。そのため、野性集団における果実の大きさ、品質等の変異を調査し、特徴ある系統を収集することを目的とした。

2. 経過

静岡県伊東市八幡野浮山地区（図1 B）には、極めて大きな自生集団のあることが知られていた。これらの樹の果実の品質、大きさについては、7月9日を中心に、一般樹208本、及び、地区住民の着目した特定樹の調査を行なった。この結果に基づいて、穂枝の採取は昭和62年3月23日、24日に行なった。

3. 収集成果

現地での調査では、既存の園芸品種の熟期、大きさ、糖度などの変異幅をこえる個体が発見された。このうち、表1に示す特徴ある4系統を収集した。3系統は大果高糖度系統、1系統は極早生系統である。収集系統は、ヤマモモ実生台に接木し、苗木を養成する予定である。

4. 所感

浮山地区におけるヤマモモの自生地現状と別荘区開発前の管理状況について、古老より聞き取り調査を行ったが、従来は主として味（糖度）に注目して採取した傾向が見られた。既存の栽培品種が主として、大きさで選抜されたのと比較すると、自生群落からの変異の選抜には、聞き取りが極めて重要な役割を果たすと思われた。

協力研究機関等

静岡県柑橘試験場伊豆分場

東京大学農学部農業生物学科緑地学教室

表 1. 収集材料現地記録表 (タチバナ・ヤマモモ 1986)

収集番号	作物名	属種名	現地名及在来種名	採集月日
02000012	タチバナ	<i>Citrus tachibana</i>	石波No. 1	62.1.7
02000013	〃	〃	石波No. 2	〃
02000014	〃	〃	石波No. 3	〃
02000015	〃	〃	石波民家	〃
02000016	〃	〃	亜熱帯支場圃場	〃
02000017	〃	〃	亜熱帯支場植物園	〃
03000015	ヤマモモ	<i>Myrica rubra</i>	浮山1号	3.24
03000016	〃	〃	浮山2号	〃
03000017	〃	〃	浮山3号	〃
03000018	〃	〃	浮山4号	〃

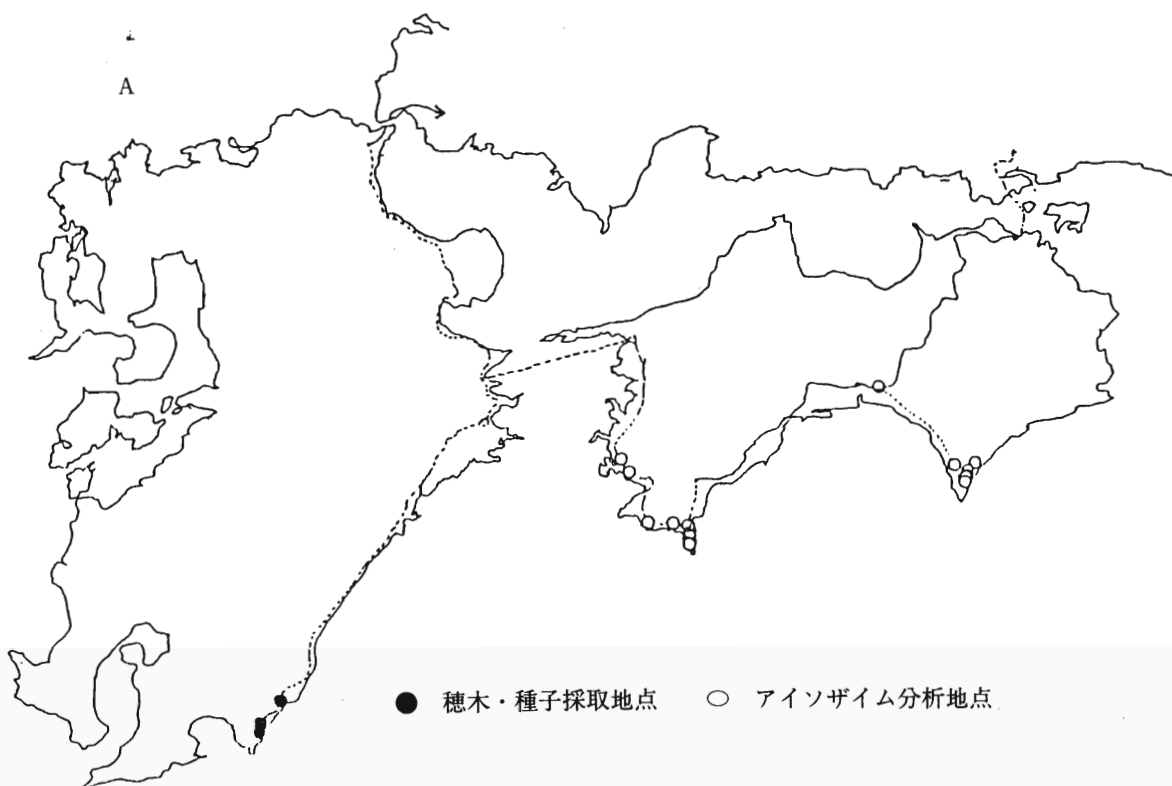


図 1. タチバナ (A) 及びヤマモモ (B) の調査・収集地

採 集 地	特 記 事 項	備 考
宮崎県串間市石波海岸	国指定天然記念物	
〃	〃	
〃	〃	
〃 石波地区		
宮崎県南那珂郡南郷町		
〃	〃	
静岡県伊東市	大果高糖度	
〃	極早生	
〃	大果高糖度	
〃	大果高糖度	

B

